令和元年度小松市立第一小学校　学校評価（最終評価）

めざす児童生徒像

子どもの成長に出会える学校づくり
① 「い」 いきいきと学ぶ子（学力） ・・・主体的に学習に取り組み，達成感や意欲をさらなる学びにつなげる姿
② 「ち」 力を合わせる子（人間関係力） ・・・自他を尊重し，互いに認め合い協働してよりよく生きようとする姿
③ 「の」 のびのびと育つ子（健康・体力）・・・健康や安全について正しく判断し，自他の命を大切にする姿
④ 「こ」 こまつを愛する子（郷土愛） ・・・学校やふるさとを愛し，大切にすると共に，未来に向かってチャレンジしようとする姿

※児童生徒達結果－教員結果･保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		中間 数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	年度末 数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
学校重点項目（学校で設定）	子どもの成長に出会える学校づくり		①②③④の項目について，肯定的に答えている職員の割合を９０％以上にする。	①	認め合い互いに学び合う温かい学級づくりを推進し，児童の自己有用感や共感的人間関係を育んでいる。	100.0				91.2				目標指標①～④の全ての項目で，９０％以上を達成しており，「子どもの成長に出会える学校づくり」に向けて，年間を通して意識を高く取り組むことができた。しかし，中間評価と比較すると，どの項目に関しても，少しずつ評価指数が減少しており，意識の低下がみられたと考えられる。	学校教育目標につながる重点項目については，年度当初に職員全体での共通理解を確実に行うとともに，学期ごとや月ごとなど，短期スパンのチェックを通して，再意識付け，再共通理解を行い，常時共通実践を行うようにする。
				②	特別活動や道徳の推進を通して，児童の成長が見える魅力ある学級づくりを行い，児童の意欲の向上を図っている。	96.8				91.2					
				③	研究主任を中心とした組織的・継続的な研修を推進し，学校全体の学びの質の向上を図っている。	100.0				94.1					
				④	若手教員早期育成プログラムを活用し，チームの一員として学校運営に参画し，互いに認め合い，助け合うとともに高め合う教師集団となっている。	97.0				91.2					
				⑤	先生はあなたのよいところを認めてくれる。	100.0	94.6	97.5	-5.4	97.0	92.4	95.3	-4.6		
				集計											

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善		①②③④の項目について，肯定的に答えている職員の割合を９０％以上にする。	①	校務分掌や業務の整理・統合が図られており，業務の平準化がなされている。	81.8				55.9				目標指標すべてについて，目標に到達していない。特に，①②については，大幅な落ち込みとなったが，年度途中の校務分担の変更等によるものが原因と考えられる。 ③④については，改善がみられた。⑤について改善は見られたものの，職員の固定化傾向が見られる。	年度当初の校務分掌について，よく検討し，一部職員に業務が偏ることのないようにできるだけ細部にわたるまで分担を行う。 通常時は，校務分掌や学年会等の小組織を主任を中心に活性化し，小組織内での平準化を常に図るようにする。
				②	主任等を中心に組織的，機能的に業務に取り組んでいる。	93.9				82.4					
				③	校務関係資料や教材等を共有化し，だれもが利用しやすいように整理している。	87.9				88.2					
				④	職員間の関係も良く，働きやすい職場である。	81.8				82.4					
				⑤	時間外の勤務時間を月80時間以内にする。 （超えた人数）中間４～６月最終　最終１０～１２月のべ人数	24				10					

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	③の項目の肯定的意見が９０％を超える。	①	学校でテーマを決め，講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	100.0				94.1				教師一人一人が熱心に教材研究に取り組んだ。教材研究をすることでねらいに迫る問い返しの難しさを感じた。	一人一人の子どもの見取りを大切にし，それに対応しうる柔軟性と教材研究の充実をさらに目指し取り組んでいく。
				②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し，研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100.0				94.1					
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み，自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	100.0				94.1					
				集計											
		授業	③の項目の肯定的意見が８０％を超える。	①	児童生徒は，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいる。	97.0	89.6		-7.4	91.2	88.3		-2.9	③の結果が下がった原因としては，学年の後半に向けて内容が難しくなったことや一学期にできたと思ったことが学期が進むにつれ，当たり前にできるようになったことで，求めることのレベルが上がったのではないかと考える。	めざす姿のベースを職員と児童で共有し，型を破っていけるように取り組む。
				②	児童生徒は，学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。	90.9	90.0		-0.9	91.2	89.8		-1.4		
				③	（発表力） 児童生徒は，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。	84.8	88.1		3.3	76.5	87.3		10.9		
				④	（記述力） 児童生徒は，自分の考えを書く機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して書いている。	69.7	89.2		19.5	81.8	88.8		7.0		
				⑤	児童生徒は，授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	87.9	92.7		4.8	93.9	94.0		0.1		
				⑥	児童生徒は，授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。	93.9	93.8		-0.1	97.0	95.4		-1.6		
				集計											
	学力の定着	学力調査	①について全職員で調査結果をもとに重点目標や課題を共通理解し，取り組みを進めていると感じている職員の割合が９０％以上。	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し，目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	96.9				93.9				学力の重点目標や具体的な取り組みへの共通理解については，９３．９％にとどまっている。 単元末テストではほとんどのクラスが平均点８０点を超えている児童の割合が８割を超えているが，漢字・計算については９０点を超えている児童の割合が８割を超えた学級は４学級にとどまっている。 また，学びの道しるべを中学校と情報提供しあい，共有することで，小中連携については，７８．８％に向上している。	学力の重点目標への共通理解が足りないと思われる。学力調査だけでなく，単元末テストなどの結果も主任会議等様々な場面で共有し，意識を高めていく。 学びの道しるべを提供しあっていることも職員へ周知し，共有を図っていることを伝え，意識を高めてもらう。
				②	学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し，定期的な検証がなされている。	84.4				84.8					
				③	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析，成果や課題を共有している。（小中連携）	71.0				78.8					
				集計											
		家庭学習	②基礎学力の向上や学習習慣の定着を意識しながら，家庭学習の評価・指導を行っていると感じている職員の割合が９０％を超えている。	①	自分で計画を立てて勉強している。 （３年以上）	92.0	86.7	72.8	-5.3	88.9	82.7	73.2	-6.2	①，②どちらの項目の数ポイントずつ下がっている。保護者の意識は変化がないとみられ，職員，児童ともに学習に対する意識の高まりから，評価が低くなったと考えられる。	家庭学習ステップアップ週間の取組で，自分で立てた目標とその成果を意識させることで達成感を持たせられるように取組を進めたい。
				②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。	100.0		96.4		93.8		96.8			
				集計											